

～広げよう情報ネットワーク・インスリンとともに生きる～

日本 IDDM ネットワーク通信

2009 年7月号

日本 IDDM ネットワークは
全国の1型糖尿病患者や家族を支援する NPO 法人です



～もくじ～

- | | |
|-----------------------------|----|
| ● 膝島移植について ～第2回～ | 1 |
| ● 「新型インフルエンザ」子供たちの誤解と不安に配慮を | 3 |
| ● 妊娠・出産に対する意識に関する研究－1次報告－ | 6 |
| ● 相談コーナー | 8 |
| ● 頑張る人はエライ<体験記> | 9 |
| ● 日Iネットからのお知らせとお願い | 10 |

膵島移植について ～第2回～

理事:後藤昌史 (東北大学国際高等研究教育機構 医師)
(東北大学移植 再建 内視鏡外科 兼務)

前号におきましては、膵島移植の基礎知識および一連の流れについて説明致しましたが、本稿におきましては実際の臨床膵島移植の現状および現在の膵島移植が抱える課題について説明致します。

膵島移植の現状

これまで実際の臨床膵島移植を推進する原動力となってきたのは、アルバータ大学(カナダ)、マイアミ大学(米国)、ミネソタ大学(米国)を中心とする北米の研究グループです。一方、ヨーロッパにおいてもギッセン(ドイツ)、ミラン(イタリア)、ブリュッセル(ベルギー)、GRAGIL(南仏およびスイス)、Nordic Network(北欧)を中心とし、膵島移植を医療として確立することができるよう試行錯誤が繰り返されてきました。特に近年、その地理的および財政的不利な条件を補うべく、国家の枠を越えた大規模な膵島移植統合プロジェクトが推進される傾向が見られ、その結果、ヨーロッパにおいても膵島移植は急激に普及し始めています。ヨーロッパによく見られる膵島移植統合プロジェクトの試みは、ドナーおよびレシピエント(*1)のプールを増やし臓器を有効利用するといった利点をもたらすばかりではなく、短期間での大規模臨床試験を可能にするため今後も一層進み、この分野全体にさまざまな恩恵をもたらすものと思われま。

(*1)レシピエント…移植の際の臓器受容者。

前号にて説明したエドモントンプロトコール(*2)の世界規模の追試における長期経過により、エドモントンプロトコールでは脳死ドナーからの膵島移植を数回重ねることによって長期に及ぶ血糖安定化が可能ですが、インスリン離脱の長期維持は難しいことが判明致しました(図1)。しかし、現在重症の1型糖尿病患者さんが膵島移植を受ける目的は、インスリン注射が面倒であるからではなく、インスリンでコントロールできない血糖状態を安定化させるためであります。したがってその本来の目的を達成するうえでは、リスクの少ない低侵襲(*3)療法である膵島移植は合目的な治療法と言えます。近年では、膵島移植時の免疫抑制導入薬として、他分野の移植において既にその有効性が証明されている強力な免疫抑制作用を有する抗胸腺細胞抗体と抗 TNF α 製剤を併用することにより、グラフト生着が大幅に促進され、インスリン離脱期間も延長するという報告がなされています。さらに世界中の多くの施設で、膵島移植に最も相応しい免疫抑制剤の組み合わせに関する研究が活発に展開されており、今後臨床に即した研究が進むことにより、近い将来インスリン離脱の長期維持が可能になると期待されております。

(*2)エドモントンプロトコール…カナダのグループにより導入されたステロイドを用いない新しい免疫抑制法。

(*3)侵襲…「手術」「医療処置」などの外部からの刺激による身体に対する負担や影響。

日本におきましても、2004年4月より臨床膵島移植が開始されました。現在のところ我が国では、膵島移植が法律上、組織移植の範疇に組み入れられるため、脳死ドナー由来ではなく心停止ドナーから御提供頂く膵臓を使用しての膵島移植に限定されております。これは世界的に見ても極めてまれであり、これまで心停止ドナーを使用する膵島移植は不可能であると言われていたことを考慮致しますと、1つの大きな臨床的チャレン

ジであると言えます。2007年3月までに57回の膵島分離が行われ、そのうち28回において、延べ17人の患者さんへ移植が行われております。心停止ドナーからの膵臓提供に限られるという我が国独特の厳しい環境が、短期間に飛躍的な膵島分離技術の革新をもたらしておりますため、今後脳死ドナーからの状態の良い膵臓が使用できるようになりますと、我が国の膵島移植は世界に類を見ない素晴らしい発展を遂げる可能性を大いに有していると思われまます。

膵島移植の課題

膵島移植が今後より広く普及していくためには、移植を受ける患者さんの要求を満たすのはもちろんであります。それに加え臓器という限りある貴重な社会資源を有効利用するため、1つの臓器によって1人の患者の治療を実現していく必要があります。

これを妨げる主たる要因として、以下の項目が挙げられると我々は考えております。

- (I) 膵島分離技術の未成熟
- (II) 有用な移植前膵島評価法の欠如
- (III) 移植後早期における膵島グラフトの生着不全

特に現在膵島移植は、欧州より供給されていた膵島分離用酵素剤にウシ成分が混入されていたことの発覚により、世界的に一時停止の状態へ追い込まれております。本年秋頃にはウシ成分を除外した酵素剤が新たに供給され膵島移植が再開される見通しではありますが、その酵素剤の効力に関しては臨床症例が少数でありますためいまだ未知であり、またこれまでの膵島分離酵素剤に共通する課題としてロット間の格差問題が依然として存在致します。現況におきましては、まずこの問題を解決し、早期に臨床膵島移植を再開することが急務であると言えます。

上述したような諸問題に対応するためには、これまで通りの一方向からのアプローチでは明らかに不十分であり、他の多くの分野がそうであるように、膵島移植の分野においても異分野や産学が連携する多角的なアプローチの積極的な導入が不可欠であります。

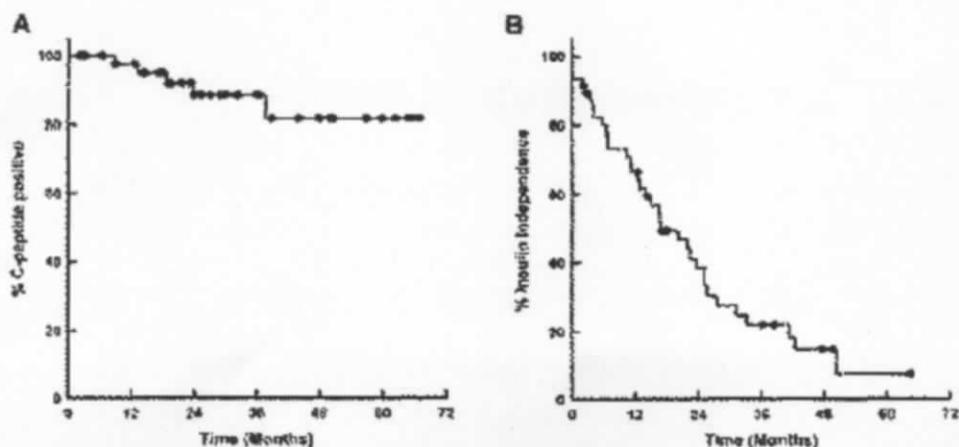


図1 膵島移植の長期成績 (Diabetes 2005 より引用)

A:膵島移植後5年以上経過しても、80%以上の移植患者においてグラフト生着が確認

されており、膵島移植は長期に渡り血糖コントロールを安定化させ得る

B: 膵島移植後5年経過すると、インスリン離脱率は約10%まで低下する

<次号につづく>

「新型インフルエンザ」子供たちの誤解と不安に配慮を

理事 山本康史(特定非営利活動法人みえ防災市民会議議長)

◆ 「糖尿病の人向け新型インフルエンザマニュアル」が完成しました

今年の4月にメキシコから始まったブタ由来の新型インフルエンザA/H1N1は、瞬く間に世界中に広がり、今も感染拡大を続けています。日本でも関西で感染拡大が確認されて以降、全国どこに住んでいても新型インフルエンザに感染するリスクがあるという状況になっています。

新型インフルエンザの報道では「糖尿病などの慢性疾患を持っている方や妊婦の方などは重症化しやすい」と繰り返し報道され、不安を感じた方も多いのではないのでしょうか？ そんな会員のみなさんのために、このたび「糖尿病の人向け新型インフルエンザマニュアル」を作成しました。

このマニュアルは、1型糖尿病の治療に長年取り組み、最近厚生労働省のH5N1鳥インフルエンザプレパンデミックワクチン研究班班長をされた先生に監修をお願いして、糖尿病専門医の視点とインフルエンザ専門医の両方の視点から最新の知見を反映するとともに、神戸にお住まいで今回の新型インフルエンザ騒動を体験した会員の方から、感染拡大時に視点について課題提供をいただいたり、過去に季節性インフルエンザに感染した経験を持つ会員の方の体験談を寄稿していただくことで、みなさんの不安を少しでも和らげることを目的に作成しました。ぜひご家族みなさんで目を通していただければと思います。

さて、実はマニュアルを作成する過程で、惜しくも掲載できなかった話題がたくさんありました。そんな話題のいくつかを、会報をお読みのみなさんだけに追加で提供したいと思います。



◆ 「新型インフルエンザ」は、すべての人が一度は経験する病気です

「日本感染症学会」がこの新型インフルエンザについて緊急提言を行いました。その一文を紹介します。

「今回の新型インフルエンザ(S-OIV)の罹患を避けることは難しいのです。例えば、1957年のアジアかぜ出現時、全国の保健所職員と家族を調査したところ、同年5月から7月の第1波で26%、9月から11月の第2波では30%が罹患したことが明らかにされています。アジアかぜの流行が始まってからわずか半年間に56%が罹患発病したのです。特に、小児では80-90%が罹患したことも分かっています」

保健所職員と言え、一般の方より医学的知識が豊富な方々ですが、そんな方々でも新型インフルエンザが発生すれば、半年の間に半数以上の方がインフルエンザに感染したのです。今回の新型インフルエンザがこのまま感染拡大を続けるなら、私たち全員が、子供たちも、両親も、一度は新型インフルエンザに感染するんだと考えておいた方が良いでしょう。感染することは「悪いこと」ではありませんし、感染者は「悪者」ではないのです。

◆ 「病原性が高まる可能性」という言葉に振り回されないでください

マスコミでは、この新型インフルエンザが秋に向けて「病原性が高まる可能性もある」という言葉が繰り返し使われています。しかし、具体的にどの程度の「可能性」かという、断言できる人は、実はこの世に一人もいないのです。みなさん、「可能性」という言葉に、振り回されないようにしましょう。

例えば、以下の「可能性」について、みなさんはどう感じますか？

- | |
|------------------------------------|
| 1) 子どもが薄着で寝ると、風邪をひく「可能性」がある |
| 2) 子どもが通学途中に、交通事故に巻き込まれる「可能性」がある |
| 3) 子どもが山登りをしている、徳川埋蔵金を発見する「可能性」がある |

1)の「可能性」の場合、「薄着で寝る」事と「風邪をひく」事の間、かなり明確な因果関係があります。一方、3)の「可能性」は、前後に全く因果関係が無く、「確率は0では無い」という言葉の裏返しでしかありません。「可能性」という言葉を聞いたら、その言葉の裏側にある「因果関係」はどの程度なのかを見つめましょう。大切なことは、このような「可能性(=まだ起きていない事)」に恐れおののくのではなく、「今起きていること」「今すべきこと」にしっかり目を向けることです。

「今起きていること」

- ・ 新型インフルエンザが、梅雨に入っても散発的に感染拡大を起こしており、今日、自分や家族が感染するかもしれないこと
- ・ 新型インフルエンザに感染したときの症状は、季節性インフルエンザと同等であること

「今すべきこと」

- ・ 感染しない為には手洗いが有効であり、その正しいやり方やタイミングを理解し、実践すること
- ・ 感染したときにどうしたらよいか、イメージトレーニングしておくということ など

◆ 子供たちの誤解を取り除き、不安に寄り添いましょう

新型インフルエンザに恐怖心を抱いているのは大人たちだけではありません。むしろ、子供たちの方がよりいっそう大きな恐怖を感じているのではないのでしょうか。今回の新型インフルエンザは、学校を中心として感染を広げています。初期に行われた空港での検疫などの映像では、完全防備の検疫官に囲まれ毛布を掛けられて隔離病棟に連れて行かれた感染疑い者への対応は、まるで犯罪者のように映りました。「インフルエンザに感染することは悪いことだ」と思いこんでしまった可能性は十分にあります。一方、どうやれば自分の身を守れるか？理解できていなければ、不安は深まります。正しい判断を妨げる根拠のない噂やデマが、子供たちの間で流布されているかもしれません。

子供たちが、そういう心理に陥っているときに助けになるのは、そばにいる大人からの正しい情報提供と、子供たちの不安に寄り添う姿勢です。具体的には、次のようなことを心がけましょう。

「子供たちの不安を受け止める」

- ・ 安易に「大丈夫だ」「心配しすぎだ」と否定せず、子供たちの思っている事、感じている不安に、しっかり耳を傾け、不安を認めてあげましょう。
- ・ 子供たちは、現実的な対応方法を知りたいのでしょうか？ それとも、漠然とした不安感に駆られ、それを疑問という形で大人にぶつけているのでしょうか？ よく見極めてみましょう。

「現実的な対応方法を知りたいのなら？」

- ・ マニュアルの内容を、子供たちにも理解できるように丁寧に説明してあげましょう。
- ・ 「手洗い」「うがい」などの予防方法の練習をして、いつも実践できるようにサポートしてあげましょう。

- ・ 明らかに誤った情報を信じていても、それを否定するのではなく、正しい情報を伝え、子ども自身の力で正しい情報を選び出せるようにサポートしてあげましょう。

「漠然とした不安感に駆られているなら？」

- ・ もしかしたら、それは、大人たちの不安感が投影されているかもしれません。
- ・ 子供たちがいる前で、新型インフルエンザについて不安や疑問を話したりしていませんか？
- ・ ものごとを必要以上に煽って伝えるような番組をみせたりしていませんか？
- ・ 子供たちはしばしば、周りの大人たちの対応や気持ちから、行動や感情の手がかりを得ています。

「新型インフルエンザの流行対策などで学校が休校になったときは」

- ・ 日常と違う生活をする事で不安感は増します。できるだけ日常と同じ生活リズムで過ごせるようにサポートしましょう。
- ・ 食事や宿題をする時間、いつも見るテレビや寝る前の習慣など、なるべく同じようにしてあげましょう。
- ・ できるだけ1人の時間を減らし、何でもよいので話しをする時間をとってあげましょう。人とのコミュニケーションが不安感を和らげます。

「糖尿病の人向け新型インフルエンザマニュアル」は、日本IDDMネットワークのホームページからダウンロードできます。



糖尿病の人向け
新型インフルエンザマニュアル

1型糖尿病研究基金
「タンブラー」を紹介します。

1個千円以上のご寄付をお願いします。



糖尿病とともに、
はつらつと生きるあなたのために。



少しでも使いやすく、人にやさしい血糖測定器をお届けしたい。
めざすは、よりよい糖尿病治療のためのベストパートナーです。



株式会社 三和化学研究所
SKK 名古屋市東区東外堀町35番地 〒461-8631

● ホームページ <http://www.skk-net.com/>
● グルテスタ情報サイト <http://www.glutest.com/>

血糖測定関連製品の
取扱いに関するお問い合わせは

ハイサンワ

0120-07-8130

365日24時間
お受けいたします

1 型糖尿病の子どもを持つ母親の子どもの妊娠・出産 に対する意識に関する研究 ～一次報告～

久留米大学医学部看護学科 母性看護学 田中佳代

今年、「1 型糖尿病の子どもを持つ母親の子どもの妊娠・出産に対する意識に関する調査」を実施させていただきました。量も多く、記載しづらい内容の調査であったにも関わらず、ご協力下さいまして本当にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。多くの皆様からいただいたご意見や想いを反映できますよう、今回の調査を元に、ご家族が 1 型糖尿病を持つ娘さんの妊娠・出産に対して効果的なサポートができるための支援を検討していきたいと考えております。

対象者： 出産経験のない 1 型糖尿病を持つ女性の母親 920 名
回収集 445 部 (48.4%) 有効回答： 435 部 (97.9%)

1. お母様の年齢： 平均年齢は 46.4 歳でした。40 歳代が半数を占めました。

2. 糖尿病を持つ娘さんの現在の年齢と診断年齢

娘さんの現在の平均年齢は 17.3 歳でした。10 代が半数以上を占めました。娘さんが 1 型糖尿病と診断された時の平均年齢は 8.4 歳でした。5～9 歳代、10～14 歳代が共に 3 割以上でした。

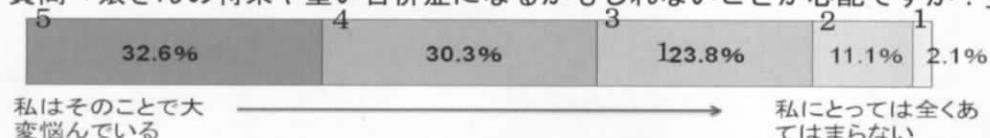
3. 糖尿病女性の妊娠・出産に関する情報・知識の程度

持っている と思う 7.6%	少しは持っていると思う 41.6%	あまり持っていないと思う 35.1%	持っていない と思う
----------------------	----------------------	-----------------------	---------------

糖尿病女性の妊娠・出産に関する情報・知識を持っていると思う、少しは持っていると思う、を合すると 49.2% とほぼ半数のお母様が情報・知識を持っておられました。

4. 娘さんの糖尿病に対する認識

質問「娘さんの将来や重い合併症になるかもしれないことが心配ですか？」



「娘さんの将来や重い合併症になるかもしれないことが心配ですか」の質問に、全くあてはまらない「1」から大変悩んでいる「5」までの 5 段階評価で回答して頂きました。心配の度合いが高いと思われた「5」「4」と回答された方は併せて 6 割以上を占めました。

5. 主治医との状況

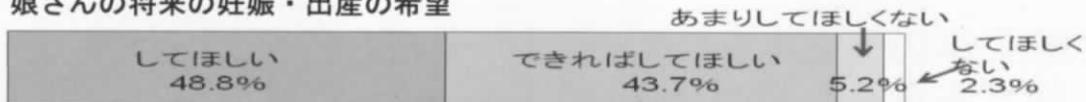
質問「医師と娘さんの妊娠・出産について話せますか？」

話しができる 50.6%	少しは話しができる 20.8%	話しづらい 19.6%	話せない 9.0%
-----------------	--------------------	----------------	--------------

6. 糖尿病を持つことが理由での娘さんの将来の結婚・妊娠の困難性の程度

「娘さんの将来の妊娠は、糖尿病が理由での困難性がどの程度あると感じておられますか？」の設問に 0～100mm の間で任意の値を記載して頂きました。平均は 63.4±28.36mm でした。同様に「結婚」についてもお尋ねしました。平均は 59.3±29.98mm でした。両者を比較すると、結婚より妊娠のほうが困難であると考えておられるお母様が多いという結果がでました。

7. 娘さんの将来の妊娠・出産の希望



お母様は娘さんの将来の妊娠・出産を希望されますか？の設問に「してほしい」「できればしてほしい」と回答された方は、併せて9割以上を超えました。

【今回の調査の結果から】

糖尿病を持つ女性の妊娠は、妊娠に関連するホルモンがインスリン抵抗性を増大させることによる母児への影響、妊娠初期の高血糖による胎児への影響が明らかになっておりますが、現代では糖尿病女性の妊娠・出産に関する医療・研究は飛躍的に進み、良好な周産期予後を保つことが可能となつてきています。しかし、今回の調査で、お母様方は娘さんの将来に不安を持っておられる方も多く、妊娠については結婚より高いハードルだと感じておられました。このように不安を持ちながらもそれでも殆どのお母様方が娘さんに将来、妊娠・出産をしてほしいと思っておられます。

お母様方が、娘さんの妊娠・出産に対してあまり不安に思いすぎることなく、前向きに受けとめ、娘さんに関わっていくことができるためには、娘さんが糖尿病と診断された時に、医療従事者がご両親へ妊娠・出産の説明を行うことと併せて、それをご両親がどのように受けとめたかについて把握し、継続した心理的サポートを行っていくこと、妊娠・出産に対する情報・知識の提供を行うことが必要であると考えます。

そのためには、主治医だけでなく、看護職者(内科・小児科看護師、助産師)もそのようなサポートができることが必要であると考えます。

今後、私達研究班は、看護職者が糖尿病を持つ女性の性と妊娠・出産へサポートが充実して行えることができるための取組みをすすめて参りたいと思います

今回は調査にご協力下さいまして、本当にありがとうございました。

changing the way we care for diabetes

よりよい糖尿病ケアを目指して

ノボ ノルディスクは、すぐれた医薬品の提供だけでなく、患者さんや医療従事者のみなさんの声にも耳を傾け、糖尿病ケアのさらなる改善を目指していきます。よりよい未来のために、私たちは、もっともっとお役に立ちたいと考えています。

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治安田生命ビル
電話 (03) 6266-1000 (代表) FAX (03) 6266-1800
www.novonordisk.co.jp



陶山えつ子の相談コーナー



Q: 発症して3年になります。現在の主治医は、発症し入院してからのお付き合いで、何でも話すことができる関係です。しかし、糖尿病の専門医ではありませんし、1型糖尿病についてもあまりよくご存知ないようです。毎月の診察では、血糖測定をしたノートを持っていきますが「血糖値が少し高いですね」とか「今月はHbA1cが高くなりましたね」と言うだけで、どうしたら血糖コントロールを良くすることができるのかを教えてくださいませんか。インスリンの調整もあまり詳しく言われませんので、自分で疑問を持ちながら調整している状態です。最近HbA1cが高くなってきているので、合併症が現れるのではないかと心配です。主治医を変えた方がいいのでしょうか。今までの感謝の気持ちもあり、先生には言い出せずにいます。

A: 主治医の先生とはいい関係を持っていらっしゃるようですが、専門的なことを詳しく教えていただけず、HbA1cが高くなっているということをご心配ですね。発症して3年であれば何とか自分の生活ペースをつかまれたところでしょうね。私がお受けするご相談の中には逆のケースもあります。「主治医は専門医で医学会では権威ある先生だけど、診療時間が短く、いつも急いでいるようで話をするのが怖い感じがして話しぶらい」という人もいます。どちらがいいのかはご本人の考え次第でしょう。

インターネット等が普及し、多くの情報を得ることができるようになった現代では、主治医以外からも様々な情報が入りますのでそのような中で主治医との関わりも変わってきているようです。「慢性疾患の主治医は自分だ」という気持ちで積極的に情報収集をしてください。その手段として当法人からの情報をご利用いただければと思います。

まずは主治医に現在のあなたの思いを素直に話してみたいかと思いますが、専門医を紹介して下さるかもしれません。我が家の息子は発症して20年になりますが、公立病院だったということもあり、主治医は6人以上かわりました。その息子は「主治医は処方箋を出してくれる人だと思っている。自分の身体は自分が一番分かるからね」と言います。

いずれにしても選択肢は一つではありませんので、今のままで不安ならチャレンジしてみましょう！



ExcelAid

エクセルエイド少額短期保険の

糖尿病の医療保険

Diabetes 80

糖尿病有病者向け医療保険

だ い あ び い て い ー ず

わたしたちは、「1型糖尿病研究基金」を支援しています。

加入年齢 満6歳～満89歳

保険期間1年の更新型

① 入院給付金
1日目からお支払い
日額 5,000円 × 入院日数

② 手術給付金
手術の種類に応じてお支払い
5万円 10万円 20万円

①と②を合算して、
年間給付金総額 **800,000円**
を限度として入院・手術を保障

※ 入院・手術の回数制限はありません。

- 3つの告知のみ（無診査）でご加入できます。
- 糖尿病の発症時期（加入前・後）を問いません。
- 糖尿病の合併症を手厚く保障します。



糖尿病

糖尿病による慢性合併症

他の病気 ケガ

小児期発症の1型糖尿病にも安心して手厚い保障

加入年齢

月払い保険料例		
加入年齢	男性	女性
6歳	1,432円	1,225円
10歳	1,432円	1,225円
20歳	1,860円	1,450円
30歳	2,111円	1,539円
40歳	2,961円	1,969円

糖尿病でない方もこの保険が、糖尿病有病者を対象としているため、保険料が割増されていることをご了承いただいた上、ご加入いただけます。

● 加入後は、糖尿病（合併症を含む）はもちろん、他の病気やケガも保障します。● 1入院60日限度ですが、入院中に糖尿病・合併症を併発した場合は、併発時から新たな入院とみなし、さらに1入院60日限度を適用します。● 初年度に限り、病気のみ契約日から60日間の免責期間があります。

<http://www.excelaid.co.jp>

まずは資料をご請求ください!

エクセルエイド少額短期保険株式会社
関東財務局長（少額短期保険）第3号 〒104-0061 東京都中央区銀座1-19-14
TEL 03-3538-0025 月～金/9:00～17:00
(年末年始および土・日・祝日を除く)

特定非営利活動法人 日本IDDMネットワーク 賛助会員

*ご契約にあたっては、商品内容の詳細について記載している「約款」および「ご契約に際しての重要事項」を必ずご覧ください。
*少額短期保険のご加入の手続きや、ご契約に関する苦情・相談およびお客様の担当者である少額短期保険事業者の身分・権限に關して確認をご要望の場合、当社までご連絡ください。

調剤E08-67

頑張る人はエライ

*** 患者さんの体験記 ***

あゆみの会 飯田 智恵

奈良県在住の会員さんでベテラン患者さんです。

今日は主人に1本取られ 高2の娘から1本取ってテニスはまあまあでしたが、血糖コントロールはバツ!!!
暑かったし必死に走り回った分、途中で血糖が下がってしまいました。スポーツドリンクを飲みながら周りに怪しまれることなくゲームを続けましたが不満足の出来でした。

初めまして sakura です。1型糖尿病歴32年51歳のオバサンです。家族は同い年のダンナ様、大学3年と高校2年の娘2人です。週3~4回テニスをし、庭で野菜を作り、仕事も学校の役員もしているし、結構忙しい毎日です。

奈良あゆみの会、大阪DM VOXの集まりなどの予定もいっぱい詰まっています、娘たちほど年の離れた友達もたくさん出来ました。

発症した頃絶望的な気持ちになったこと、しんどい不安な妊娠期間を経て、2人の娘の出産……私の今までの人生の中のどん底と幸せの絶頂の両方が味わったと懐かしく思い出します。今は日々の血糖コントロールにトライ&エラーを繰り返し頑張っている自分がとても好きです。



まだ自己注射が認められていない時代の発症だったので、長い入院生活を強いられ成人式にも行けませんでした。そのため、今年上の娘のお祝いにかこつけて家族揃っての着物の記念写真を撮りました。1型DM(糖尿病)ならでこそその夫婦のつながり、家族の絆だと自負しています。

血糖が上がっても下がってもしんどいですが、自分で解決できることが気に入っています。知識と技を身に付けて(☆「1型糖尿病お役立ちマニュアル」(日本IDDMネットワーク発行)を参考にしてください☆)

自分のやりたい事のために前に進みましょう!!! そして頑張っている自分を褒めてあげましょう!!!

全国患者会代表者会議を開催しました in Osaka

6月27、28日の2日間、大阪NPOプラザにて全国15団体の代表者の方が集い、「全国患者会代表者会議」を開催しました。1日目は IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表の川北秀人さんをお呼びし各団体の課題についてのワークショップを行い、翌日は前日のワークを受け、当法人の活動のあり方について、エリアごとに分かれて議論をする機会を設けました。各団体の課題は同様のものが多く、夜の懇親会まで議論が持ち込まれ、大いに盛り上がりました。今回は時間が短くて議論が中途半端に終わってしまった部分もありますが、各団体の方同士がこれまで交流する機会もほとんど無かったのでお互いに悩みを共有でき、解決に結びつきよいきっかけになったと思っています。各団体の連携の必要性、また私たち日Iネットが各患者会の課題と一緒に解決するためにもこれから取り組むべき活動が明確になって来ました。今回は残念ながら参加できなかった会の方も是非次回にご参加ください!

定額給付金キャンペーンへのご寄附ありがとうございます！

前回の会報で1型糖尿病研究基金へのご寄附の一環として、定額給付金のご寄附を呼びかけさせていただきましたところ、6月末現在で51個人・団体の方々より332,500円を頂戴いたしました。ありがとうございます。“1型糖尿病の治療につながるあらゆる先進的な研究”に使わせていただきます。

おかげさまで、今年度も先進的な研究に取り組まれている研究者の方々に少なくとも200万円の研究費助成を行う目途が立ちました。

まだまだ募集しておりますので、皆様、引き続きのご協力をお願いいたします。

<お振込先>

最寄りの郵便局:01710-9-39683 特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク

みずほ銀行:普通 店番 676(佐賀支店) 口座 1629393 特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク

不要な入れ歯を寄付してください！

JPA(日本難病・疾病団体協議会)と特定非営利活動法人日本入れ歯リサイクル協会の主催で、日本IDDMネットワークも取り組みを始めています。入れ歯や歯のつめものに使用される金属を回収して、その益金を①ユニセフを通して世界の恵まれない子ども達のために②JPAを通して難病や慢性疾患の患者(1型糖尿病患者を含む)のために活用します。

入れ歯のほか、歯にかぶせたクラウン、歯につめたインレー、歯と歯をつないだブリッジも送ってください。ただし、金属のついていない入れ歯は送らないでください。

*****不要になった入れ歯を寄付する方法*****

- ① 汚れを落とし、熱湯か入れ歯洗浄剤(除菌タイプ)で消毒してください。
- ② 新聞広告等の厚手の紙で入れ歯を包み、ビニール袋に入れてください。
- ③ 封筒に入れ、下記へ送ってください。

〒840-0813 佐賀県佐賀市唐人2-5-12 TOJIN 茶屋 3F

特定非営利活動法人日本IDDMネットワーク宛



上記への郵送のほか、回収ボックスを「くりはら歯科医院(広島県三原市)」に設置させていただいております。ご協力いただける歯科医院等を是非ご紹介ください。

自動販売機設置ご協力のお願い！



自動販売機で飲料水を購入すれば自動的に社会貢献ができ、購入代金の一部が当法人に寄附される仕組みをこの度、コカ・コーラグループ各社のご協力を得て実施することになり、自販機の設置場所を探しています。設置場所の例としましては、会社(総数20人以上)や工場等です。ご協力いただけそうな場合は事務局へご一報ください。但し、一日あたり約25本の販売が見込める場所になります。コカ・コーラ各社が調査のうえ決定されます。皆様のご協力をお待ちしております。

1型糖尿病研究基金の“タンブラー”を紹介します！

1型糖尿病根治に向けた研究開発を促進する目的で「1型糖尿病基金」を設立し、これまでメッセージ T シャツを2千円以上の寄附をいただいた方で希望者へ贈らせていただいておりますが、T シャツに替わる第2弾としてメッセージ「タンブラー」を作成しました。こちらはロシュ・ダイアグノスティクス株式会社様のご支援によりデザインを作成しました。こちらは千円以上のご寄附をいただきました方へ配布いたします。主にセミナー・イベントでの配布を行いますが、希望される方は事務局へご連絡ください。

10個以上ですと送料無料ですが、10個未満の場合は送料をご負担いただきます。ご寄附をお待ちしております！



～1型糖尿病研究基金のお知らせ～

日本 IDDM ネットワークでは、1型糖尿病根治に向けた研究開発を促進する目的で、「1型糖尿病研究基金」を設立し、メッセージTシャツを作成しました。

集まった基金で、1型糖尿病の根治療法につながる先進的な研究に取り組んでいる研究者の方々や団体に対し、研究費の助成を行うことにより、発病原因の解明や治療法の確立等にむけ、より一層の研究の振興を図ります。

たくさんの方々のご協力をお願いいたします。

サイズは、XS～XXL、
色は白、黒、オレンジをご用意
しています。
デザインには英語で、「糖尿
病を治そう！」というメッセー
ジが込められています。



(お詫び)
LとXLは在庫がなくなりました。

Tシャツ1枚につき
2000円以上のご寄付
をお願いいたします！

イベントセミナー情報！

- 7月25日(土) in 東京 : 就職をテーマにした交流会(申し込み受付中！)
- 8月2日(日) in 東京 : 学校生活をテーマにした交流会(申し込み受付中！)
- 8月26日(水) in 三重 : 教職員と患者・家族との連絡会(申し込み受付中！)
- 9月5日(土)・6日(日) in 愛知: “愛フェス”にブース出展
- 10月3日(土) in 熊本 : 医療費の仕組みを知ろう！セミナー
- 10月17日(土) in 東京 : 妊娠・出産に関するセミナー(申し込み受付中！)
- 11月14日(土)全国各地 : 世界糖尿病デーイベント(企画中)
- 1月30日(土)・31日(日) in 京都 : 全国シンポジウム

これ以外にもこれから企画していきますので是非ご参加ください。



“愛フェス”に出展します～9月5日(土)6日(日)～！

愛・地球博記念公園「モリコロパーク」を利用して、日本初のファンドレイジング(資金調達)イベントに日Iネットは1型糖尿病の啓発の目的でブースを出展します。愛知やその周辺地域にお住まいの皆様、是非遊びにいらしてください。

詳しくは愛フェス HP「<http://ifes.jp/>」をご覧ください。

編集後記 ♪♪

今年は世界糖尿病デーでこの病気の啓発に向けて何かイベントをしようと企画を練っています。よい案をお持ちの方は事務局までご一報ください。皆様暑さに負けず夏を乗り切りましょう！

<発行元>

特定非営利活動法人 日本 IDDM ネットワーク

事務局 〒840-0801 佐賀県佐賀市駅前中央1-8-32 iスクエアビル3階

市民活動プラザ内 レターケース No. 42

TEL & FAX : 0952-20-2062 相談 TEL : 090-2713-7849 陶山(すやま)

Email: i-net@isis.ocn.ne.jp

URL : <http://www5.ocn.ne.jp/~i-net/index.htm>